

## 資料編

### 第一 基礎調査

#### 1 アンケート調査の概要

##### (1) 目的

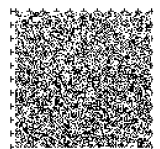
本計画の策定にあたり、以下の3つの調査を実施し、品川区の子どもや家庭での読書活動等の実態を把握しました。

##### (2) 調査内容

調査対象	①品川区立学校に通う5年生および8年生 ②品川区に在住する1年生～4年生の子どもを持つ保護者 1,500人 ③品川区に在住する高校2年生相当の青年 1,500人
抽出方法	①品川区立学校52校へ調査協力を依頼 ②・③品川区住民基本台帳に基づく、層化無作為抽出
調査方法	①学校を通じた調査依頼により、紙の調査票を配布・回収 ②・③調査票を郵送配布し自記入方式で回答、郵送回収・WEB回収の併用
調査期間	①令和6年7月8日(月)～7月25日(金) ②・③令和6年8月21日(水)～9月2日(月)
有効回収数・回収率	①1,566件 ②629件、41.9% ③309件、20.6%

##### (3) 調査結果(まとめ)

調査結果の詳細については、別冊「品川区子ども読書に関するアンケート調査報告書」をご参照ください。



## 2 ヒアリングの概要

### (1) 目的

子どもの読書活動や電子メディア利用に関する知見を持つ有識者等を対象にヒアリング調査を実施し、その結果を分析することで、計画策定における施策検討の資料とします。

### (2) 対象、実施日時

氏名	肩書	実施日時
佐藤毅彦	立正大学文学部教授	令和6年7月23日 14:00～15:00 ※2名同時に実施
堀純子	立正大学文学部教授	
安形輝	亜細亜大学経営学部データサイエンス学科教授	令和6年7月26日 10:15～11:00
岡枝理佳	NPO 法人 IWC 国際市民の会理事	令和6年7月26日 13:00～13:45
野口武悟	専修大学文学部教授	令和6年7月30日 17:30～18:30

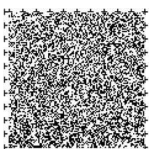
### (3) ヒアリング結果

#### ①中学生・高校生の読書習慣・読書活動の現状について

- 中学生と高校生の読書活動については、ずっと不読率が高い。小学校、中学校は、結構、朝の読書が効いていると思う。本当に読書習慣が身についているのかどうかは、これからわかってくる。
- 高校生については、忙しいというよりは、学校で無理やり読書させることに抵抗があると思う。高校生は、自分が読みたいと思わないと読まない。正直、短期的なことでは解決できないと思う。
- 確かに今の子どもたちは、本自体は読んでいないが、スマホやインターネットで文字情報を受け取る分量は多い。本に限られた読書にすべきなのか。そこに注力すべきなのか。
- 本を読むという意味での不読率が高いというのは色々ところで指摘されているが、それを本当に問題視すべきなのかどうか。

#### ②中学生・高校生の読書活動を促すため公共図書館が果たすべき役割について

- 主体的な調べ学習、アクティブラーニング（一方的な講義形式の授業ではなく、生徒が能動的に考え学習する教育法）と図書館をつなげることが重要だと思う。区でやる場合は、学校図書館や学校と連携して、モデルにできると良いのではないか。
- 調べるときに本が役立つことを体験してもらうことが大切。
- 図書館を読書の施設だと思っている人が多い。図書館は色々な機能を持っており、調べることができる場所でもある。音楽配信の契約をしている図書館もあるし、図書館では色々な楽しみができることを、まずは知ってもらうことが重要。



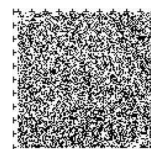
- 読書活動というよりは、読書を提供するという意味で、図書館が読書環境を整備して、図書館に来ていただきやすい、来ていただけるようなことは、もう少しやる必要があるのではないかと思う。
- これは非常に難しく、永遠の悩み。統計上、不読率は5割前後だが、逆に言うと、読んでいる子も5割はいる。なぜ、同じ高校生で、忙しくても読んでいるのか。読んでいない子にどう読ませるのかというよりも、読んでいる子はどう読んでいるのかをもっと知ってもらった方が良いのではないか。
- ティーンズ世代でよく本を読む子や図書館に来る子たちにインタビューをして、事例集を図書館が作って発信したらどうか。SNSでも良い。本を読んでいる子を、どうやって工夫をして本を読んでいるのかを紹介したら良いと思う。

### ③中学生・高校生の読書環境づくりについて

- 司書の役割は非常に大きい。施設があっても結びつける人がいないと難しい。学校でも先生だけだと、なかなか図書館を使ってもらうようにはならない。
- 学校現場で図書館を使い、色々な資料にあたって成果物を作っていくプロセスが、中学校、高校では必要だと思う。そのためには、司書教諭や学校司書の存在が非常に重要になる。先生だけだと、なかなか図書館を使ってもらおうとはならない。
- 家庭も大事。結局は大人だと思う。大人が本を読まない、子どもも本を読まない。感情を豊かにするためには、物語を読むことが重要。そういうものは、大人と一緒に、話題になったものを読んだり、楽しんだりできるような読書環境があると良い。子どもにだけ「読め、読め」と言っても、読まない。
- 大人が本を読むことを面白がっていれば、それだけで子どもは興味を持つ。
- とっかかりは柔らかくて良い。マンガでも良い。
- 中高生についていえば、スマホを四六時中握っている。スマホを快適に使える状態をつくることは、中高生を呼び込むことにつながるのではないか。読書に直接結びつかないが、まずは図書館に来ていただくという意味では必要だと思う。
- 学校教育との連携で、総合的な学習の時間などで調べ学習がある場合、インターネット上の情報だけではわからないような課題を出す。あわせて図書館で支援をするような講座のようなものを提供する可能性はある。また、PC環境の充実は必要だと思う。

### ④障害のある子どもへの図書館サービスについて

- 最近のトピックは、読書バリアフリー。視覚障害者だけではなく、ディスレクシア（文字の読み書きに困難を抱える障害）の方等にとっても、デイジー（デジタル録音図書国際標準規格）図書は非常に有効と言われている。そのあたりをどう取り組んでいくのか。
- 視覚障害の方、読書バリアフリーの対象になるような子どもたちにとっては、サピエ図

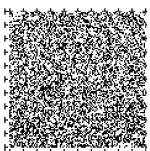


書館（視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）が行っている点字図書・デージー図書のデータを提供するサービス）等のサービスをしているところにアクセスできるかどうか大きな話になる。

- 孤立しがちな障害をお持ちの方を、視覚障害の方や読書バリアフリーを求める人たちのコミュニティにうまくつないであげる役割を果たすところは必要だと思う。
- 図書館業界で典型的なものとしては、デージー図書が有名。それも障害のある方の読書では不可欠。そういう書籍を充実させていく。また、区の図書館だけが提供するのではなく、是非、学校図書館でも使える環境を作っていくことが重要になる。
- 区の図書館だと障害者サービスの利用登録が必要だが、子どもの登録に対して保護者が認めない場合もあるので、子どものデージー図書については、学校経由で使っていただくことが良い。
- 区の図書館として、サピエ図書館やみなサーチ（国立国会図書館が提供する、障害のある方が利用しやすい形式の資料を探ることができるサービス）を活用されていると思うので、そういうデータを区の図書館としてダウンロードして学校に提供することは、著作権法上、何も問題はないので、そういう活用の仕方もあると思う。
- 学校向けのバリアフリー資料のセットを用意して、セット貸出しているところもある。次期計画の5年間の間に、そういうセットを何セットか用意するとかは、あっても良い。
- 読書活動として、子ども向けに読み聞かせやお話し会はやるが、それをインクルーシブ（障害の有無や国籍、年齢、性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくこと）なものにしていくことも重要だと思う。例えば、手話ができるボランティアさんに入っただけ、手話付きのお話し会を開催してみるとか。図書館職員の方たちだけでガムシャラにやるという発想ではなく、手話が得意な区民の方に入ってもらい一緒にできると良い。

#### ⑤外国にルーツのある子どもへの図書館サービスについて

- 中途半端に外国語の資料を収集しても、あまり意味がないと思う。切り捨てる訳ではないが、中途半端にやって皆がlose-loseになるくらいなら、どこかに集中して皆がwin-winになる方が良い。
- 保護者が読書の大切さ、本を読むことの大事さを認識することが重要だと思う。
- 本を読むことで、子どもたちの心が非常に成長するということが、小さければ小さいほど、読書または読み聞かせをしてあげることが大事であることを理解してもらうことが重要。
- 自分で字が読めるようになって、一生懸命、文字を追っている段階では、内容はわからない。大人と一緒に読んでもらうことで、本を読むことが楽しいと思うようになれば、次は自分で読むようになる。そこまでのサポートを大切にされた方が良い。そういう過程の中で読書習慣を身につけていくことが大事だと思う。



- 子どもが本に慣れていない場合には、保護者を含めてのアプローチが大切。
- 大きく2つの観点がある。1つは、多言語資料。その子の第一言語、母国語で読書できる環境をどうつくっていくのか。品川区の実状に合わせて、比較的人口比の多い言語を優先して収集していくことになると思う。また、学校でも指導が必要な外国にルーツを持つ子どもはいるので、学校図書館にも多言語資料を揃えていけると良い。もう1つの視点が、やさしい日本語。資料だけではなく、図書館の館内の利用案内もそうした視点で提供されると良い。
- 世田谷区のボランティアグループで多言語絵本の会 RAINBOW という団体が、誰でも利用できるように、日本昔話やよく知られている絵本作品等を多言語翻訳して電子書籍化をしている。そういうところの作品を使わせてもらっても良いのではないか。

#### ⑥困難を抱えている子どもへの図書館サービスについて

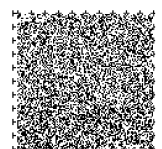
- 品川区の取組みとしてやっている生活困窮者自立支援事業「学習支援あした塾」の会場に出向いて、図書館がおすすめの本を貸し出すとかしても良いのではないか。

#### ⑦テクノロジーと読書との関係について

- 国際子ども図書館で「調べる・学ぶ・読む」というコンテンツを作っており、この中にあ  
る「本で調べる東京名所」では学習しながらデジタルコンテンツを見ることができる。  
昨年リリースされたばかりなので、国際子ども図書館周辺の上野しかない。これの品川  
版を作ってはどうか。
- 国立国会図書館には、ジャパンサーチというコンテンツがある。そこでは、その場で割  
と簡単に電子展示会を作ることができる。作り方のマニュアルも提供されている。すぐ  
に学校でも取り組んでもらうことができる。中学生、高校生、大学生は、体験しながら  
学ぶことが好きだと思う。
- 調べ学習や歴史研究等で、ネット上では出ていない本を調べる時に、国会図書館のデジ  
タルコレクションは非常に貴重な情報源となる。普通の図書館の電子書籍サービスより  
は使いにくいですが、公共図書館の人が、興味深いタイトルの資料を子どもたちに紹介する  
ことはできると思う。
- 電子書籍と一口でいうが、図書館向けの電子書籍の話と、一般向けの電子書籍の話は、  
切り分ける必要がある。電子書籍というキーワードの扱いは難しい。
- 生成AI全盛の時代だからこそ、図書館が重要になると思う。情報の確かさをどうやっ  
て見極めるのかという時に、図書館に立ち戻るしかない。「図書館に行こう」「司書にき  
こう」という流れを作っていくことが重要。学校教育、学校図書館と連携してアピール  
していくことが大切。

#### ⑧次期品川区子ども読書活動推進計画を策定していく際に求められる視点・考え方について

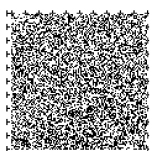
- お金は、人にかけていただきたい。人に尽きる。人と人をつなげていくことが大切。
- 学校図書館には、人が必要だと思う。



- 明確に、これが好きというものを持っている子どもは、本との出会いも早いと思う。子どもたちは、自分の興味のあるものに対しては、情報を探す。そういう興味があるもの、好きなものを引き出してあげることが重要。
- どんなに重い障害の子どもであったとしても読書ができる環境をどう実現していくのが重要な視点となる。そのあたりの意識を変えていくというのは、次期計画をどうしていくのかにもつながると思う。
- 図書館から接点づくりを行う中で、少しずつ図書館に対する意識を持ってもらうと良い。そういう子どもたちが、安心してくることができる空間づくりという点でも、大きな意味を持つと思う。
- 読書推進計画のターゲットは子どもかもしれないが、大人が重要な鍵を握っている。
- 次期というよりも、長期的な視点になるが、いずれは「子ども」を取ってしまい、「品川区読書活動推進計画」にしたら良いのではないか。
- 読書環境の捉え方として、公共図書館や学校というように既存の枠組みの中で考えてしまいが、もう少し区内にある書店、私立学校等、たくさんある民間事業者を巻き込んで、一緒にできることを方向性として打ち出しても良いのではないか。

#### ⑨社会全体で子どもの読書活動を進めるために必要なことについて

- 図書館をどんどん活用してもらうという話と、子どもにどんどん読書してもらうという話を一緒に考えても良いが、図書館を活用してもらうということだけでいうと、本を読む場所、勉強する場所という固定観念ではなく、もう少し色々な機能があるということ打ち出しても良いと思う。居心地の良い場所で、たまたま本棚を見たら「面白そうなものがあるな」という発見ができる場所に図書館がなれば良いのではないか。
- 情報リテラシーについては、重要性が増していると思う。子どもたちが過度に情報に踊らされないようにしていくことは大切だと思う。
- 理想的には、図書館は、信頼できる情報を提供する場であって欲しい。そういう意味では、図書館のスタッフの方が、特定の言説に惑わされることなく、情報の信頼性なり、ある種の評価ができるようにしないといけない。
- 興味があること、好きなことを、本につなげていくには、誰かがつなぐ役割を持った方が良い。
- ワクワク、ドキドキ、怖いものを乗り越えていくということも、読書の中にはある。そのときに、一緒にいてくれる大人がいれば乗り越えていかれる。やはり、周りの大人、特に家族は大事だと思う。
- そもそも大人が読まない状況で、子どもに本を読めと言っても読まない。本来は、大人も含めて、読書に親しめる環境づくりを進めるべきだと思う。
- 読書の魅力にあらためて気づいてもらうような機会づくりをどうしていくのが、一つ重要なポイントとなる。



### 3 ワークショップの概要

#### (1) 目的

本計画において重点を置いているティーンズ世代への効果的なアプローチの手法を探るため、同世代の子どもたちを対象として、ワークショップを行いました。

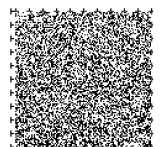
#### (2) 開催概要

##### ①中学生・高校生ワークショップ

趣旨	品川区では、「品川区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが読書を好きになるために、どこでも、いつでも、自分から進んで本を読むことができるように、いろいろな取り組みを行っています。中高生にもっと読書を楽しんでもらうために、アイデアを考えるワークショップです。
日時	2024年8月25日(日) 14:30~16:00
場所	品川図書館(北品川2丁目32-3)
参加者	品川区立図書館のティーンズボランティア制度に登録している中学生、高校生 ※大学生のティーンズボランティアにファシリテーター(各グループの進行役)を依頼
参加人数	中学生:11名 高校生:3名 大学生:5名 事務局:品川区 3名 創建2名

##### ②大学生ワークショップ

趣旨	品川区では、「品川区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが読書を好きになるために、どこでも、いつでも、自分から進んで本を読むことができるようにいろいろな取り組みを行っています。中高生にもっと読書を楽しんでもらうために、アイデアを考えるワークショップです。
日時	2024年8月27日(火) 14:00~15:30
場所	品川図書館(北品川2丁目32-3)
参加者	立正大学図書館 学生スタッフ 清泉女子大学図書館 学生スタッフ
参加人数	立正大学図書館 学生スタッフ:5名 清泉女子大学図書館 学生スタッフ:7名 事務局:品川区3名 創建3名



### (3) ワークショップ結果

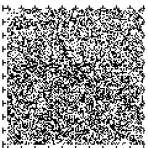
#### ①中学生・高校生ワークショップ

##### 【Aグループのまとめ】

- 読書をしない理由としては、本が多くどの本から読めばよいかわからない、タイトルがつまらなさそう等。自分に合う本なのか選ぶのが難しい、図書館の使い方が分かっていない等の意見が挙げられた。
- それらに対する対策として、わからないことに対しては、どの層向けの本なのかをはっきりさせる。また、ランキングを作ってみる。
- インターネットを使った対策としては、有名人のSNSやYouTubeのショート動画の本紹介などをきっかけとして読んでみようと思ったり、品川区内の近所を聖地にした本があれば、そういう情報を発信することで読むきっかけになると思う。
- 自分たちができることとしては、本のバーコードの隣にちょっとしたあらすじをつけると、タイトルに惹かれて本を手にとった時に確認できて良いと思う。
- 図書館の中に、近所の聖地の本や話題の本等、対象別のコーナーを作ると良い。
- POPについては、自分たちティーンズボランティアが作っても良い。また、図書館に来た人が自由にPOPを作成できるコーナーを作っても良いと思う。

##### 【Bグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、面白い本を見つけることができないこと、本に対するネガティブなイメージが強いこと等の意見が挙げられた。
- 面白い本を見つけることができないことに対して、図書室や図書館では、目を惹くコーナーや、同世代のティーンズボランティアが薦めする本を置いてみると良い。パッと読める本、手軽に読める本を選ぶことが大切だと思う。
- ネガティブなイメージを持っているのは、学校で出される課題が暗く、そうした本を強制的に読まされたことが原因なのではないか。
- 課題として本に触れるのではなく、お友達が薦めた本に触れる機会を作った方が良い。その際には、内容を暗いテーマではないもので、明るいものから薦めていくことがポイントだと思う。
- SNSでは、小説の内容が気になるようなセリフを入れたティーザー（視聴者をじらすような仕掛け・仕組みを用いて、興味関心を引くことを目的とした広告や映像のこと）を作ったり、YouTube化してみてショートで流すとか。そういうバズりそうなことをやってみる。
- ティーンズボランティアが自分たちと同じ世代向けにPOPを選んでも良い。





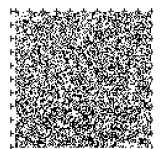
### 【Cグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、面倒、時間がない等の意見が挙げられた。自分の好きな本がわからない、何を読んで良いのかがわからない、という意見が多かったので、それについてできることを考えてみた。
- 図書館でできることとしては、本の福袋。毎年やっているところが多いが、毎月やっても良いと思う。また、本の通帳を作って、本を借りる楽しみを付与すると面白い。
- インターネットの利用については、図書館ホームページに検索の画面があるが、題名、作者だけではなく、自分の趣味に合ったキーワードなどで検索ができると良い。ホームページだけではなく、館内のパソコンでも、そういう機能があると良い。
- ティーンズボランティアができることとして、お薦めの本を選んでティーンズ向けの棚を作るが、その際に、例えばショート縛りにするとか。ショートショートを特集するとか。5分で泣ける本等。
- また、POPの工夫としては、ネタバレさせるもの。1枚目にはお薦め、その先が気になるようなことを書いておいて、それをめくると結末が書いてあるものなどをして面白い。

### ②大学生ワークショップ

### 【Aグループのまとめ】

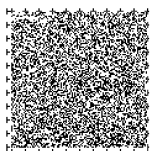
- 読書しない理由としては、主に4つの意見が出た。1つ目はハードルが高いという点。小中高で「本を読め」とよく言われるが、本が多すぎて何を読めば良いのかわからないことがあると思う。それに対して、私たちができることとしては、フローチャートを作り、「今、穏やかな本を読みたいですか」などの質問に YES or NO で答えてもらい、その時の自分に合うお薦めの本を提供することで、本を選択しやすくなると思う。また、図書館の入口などで、特定のテーマや何らかのコラボや夏祭り等、そういう情報に接してもらうことで、本の種類が多すぎてわからないという問題を解決できるのではないかな。
- 2つ目として、部活や遊びのほか、インターネットの普及等により、読書以外にやりたいことがあるという意見が挙げられた。それに対しては、YouTube ショートで本のあらすじを紹介したり、有名人のお薦めの本を紹介したり等があれば、ネット環境でも本の情報に触れることができる。本を読む人はカッコいい、大人であるというプラスのイメージを持たせることで、本に触れる機会を増やしてもらおうと良いのではないかな。
- 3つ目として、読むタイミングを作れないことや、部活や塾で忙しく、時間がないという点が挙げられた。その対策としては、高校も含めて学校で読書タイムを作ること。読書感想文や何冊読みなさいというような強制では本を読む気にはなれないという意見も出たが、ある程度、学校等で本を読む時間を作ること、読書に触れるきっかけになると思う。



○4つ目として、読む環境が整っていない点。家に読む本がなかったり、周囲に本を読む人がいなかったり、そもそも本を読もうとするきっかけがなかったりする場合がある。その対策としては、若い世代であれば、本よりもマンガに興味を持つと思うので、マンガをきっかけに関連する本を置いておくのが良いのではないか。例えば、文豪ストレイドッグス（朝霧カフカ原作、春河 35 作画による漫画作品。太宰治、芥川龍之介、中島敦といった文豪がキャラクター化され、それぞれの文豪の作品や、ペンネームなどの名を冠した異能力を用いて戦うアクション漫画）をご存じの方が多と思うが、私が行っていた高校でも、マンガと一緒に作品に関連する文豪の本が置いてあることがあった。あるいは、舞台になっている時代背景や文化、生活等に関する本を置いてみるのも良い。小説だけではなく、様々な知識を得られる本をマンガとともに展示しても良いと思う。

### 【Bグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、主に5つの意見が出た。1つ目、2つ目は、SNSで短いコンテンツに慣れてしまい、本を1冊読み切ることが難しい、短いコンテンツの方が好きという人が多い点。また、内容が難しいものであったり、難しい表現が多いと、読んでもなかなか理解できない。文字が多くて大変。そういう問題への対策としては、「目と耳」と「動画」。「目と耳」というのは、目で文章を読むという読書以外の方法での読書を提供できれば、文字量が多くて敬遠されるという問題は解決されると思う。「動画」というのは、ショート動画で本を紹介したり、Instagram リール（15～30 秒の短尺動画を作成・公開できる機能）を使ったり等、短いコンテンツを使って本の紹介動画を発信していくことで、本に触れやすくなるのではないか。
- 3つ目は、読書はどうしても勉強と結び付けられてしまう点。「本を読む」＝「勉強」というイメージを持つ中高生も多いので、本を読まなくなると思う。それに対しては、学校では朝読書の時間を設けたり、教室に本棚を置いたりして、本に触れる機会を作ることが大切だと思う。また、中高生が好きなスポーツ選手やアニメ等、スポーツ選手の記事等から文字に触れたり、アニメを通して本に触れたりできれば良い。自分たちができることとしては、学校では放送の時間に本を紹介したり、授業で読む本に出てくる作家さんの本を紹介したり、映画化されたものの原作を紹介したり。また、皆が読んでいる本のランキングを作ったり、大賞を取った本を紹介したり等、自分たちでもできると思う。
- 4つ目は、何を読めば良いのかわからないという問題に対して、先ほどあったように好きなスポーツ選手やアニメ等を通じて本に触れたり、ショート動画で紹介したりするほか、児童書から大人の本へ移行する際にサポートしてあげると良いのではないか。自分と相性が良い本を診断するテストをしたりするのも良いと思う。
- 5つ目に関しては、その他としてまとめている。







## ②大学生ワークショップ

